

## 《6年生の感想より》

一部抜粋して掲載しています

・「来年、委員長になれば。」5年生の時に先生に言われた言葉をきっかけに僕は委員長になった。本番、僕は朝礼台の上へ立った時、2つのことを感じた。1つはとても緊張して言葉が出るか心配だった。もう1つは、僕がみんなの前で代表として今からしゃべるという責任感を感じた。最後の振り返りを無事言い終わった後、教頭先生、古田先生にととてもほめられて僕はやり切ったと感じた。この運動会で僕は委員長としての責任をもつことができ、どんなに難しくても大きなことでもやればできるということを学んだ。

・5月28日 日曜日に運動会がありました。私が一番がんばったのは、リレーです。緊張したけど、無事に走ることができました。小学生最後の運動会は思い出に残りました。

・私が4・5年生の時は、6年生は最後の運動会だから悲しい気持ちもあるだろうけど、だからこそ楽しくて大変な事が全然ないんだろうと思っていました。でも、自分が6年生になって、低学年のお世話や会場準備、それぞれの係などたくさん大変なことがありました。とてもきつかったけど、みんなで協力して精一杯の力を出しました。けれど私は白組で負けてしまいました。とてもくやしかったけど、勝ち負けなしにみんなで楽しめてよかったです。最後の運動会で改めて学んだことは、協力して全力を精一杯だし、あきらめずにがんばると必ず自分の練習してきた成果が表れることです。

・全体練習の時に校歌を歌っていて、バラバラに感じた。そんな時に四井先生から紅組の指揮者を任された。白組担当と放課後残って練習をしたり、休み時間に練習したりした。だけど、みんなの前でするのは本番しかなかったから緊張した。私は人の前に立ったりすることは苦手だったけど、自分が練習したことを信じてやってみようと思った。そして本番当日になった。とても多い人の前にたって、緊張はしたけど、大きくできた。最後の運動会だったから楽しくできてよかった。終わった時に「よかったよ」と言われてとてもうれしかった。このことを生かして、人の前に立った時も話せるようになりたい。

・僕は1年生の頃から応援団長になりたかった。応援団長に決まった時は泣きそうになった。練習の時は、僕がチームを引っ張るんだという気持ちで必死に練習をした。だけど、自分のことで頭がいっぱいになってみんなをまとめられていなかった。ある日、「団長がみんなをまとめないでどうするの」と言われてとても悔しくなった。ついに本番。僕は今までにないほどの大きな声を出し、紅組の団結力はとても良くてみんなでしっかりと応援ができた。ついに勝ち負け発表のとき、紅組は白組に勝てた。これは応援団のおかげだと思っている。これからも応援団の経験を生かして、6年生をまとめ、引っ張っていけるような素晴らしい人になりたい。

・僕が応援団長になったとき、生きてきた中でとてつもない喜びと緊張感があった。出来るわけないとも思った。でも最後の運動会だった。僕は応援団になるのは初めてだった。練習のとき、僕は間違えるばかりだった。他の人がどんどん上手になっていった。僕はとても悲しかった。団長なのにみんなより下手くそだった。それでも6年生みんなが僕にかけよって教えてくれた。休み時間を削っても教えてくれた。そのおかげで僕はうまくなれた。毎日の休み時間、本番に向けて練習を何回もした。ついに本番、とても大きな声で「応援団、入場ー！」と言った。僕が一番苦手なゴーゴーが始まった。「最後の運動会、絶対成功させてやる！みんなが教えてくれた2週間を絶対無駄にはしない！！」結果は大成功だった。僕はとてもうれしかった。「みんなありがとう」と心の中で言った。